

平成20年度決算(案) 説明資料

平成21年5月29日
明治安田生命保険相互会社

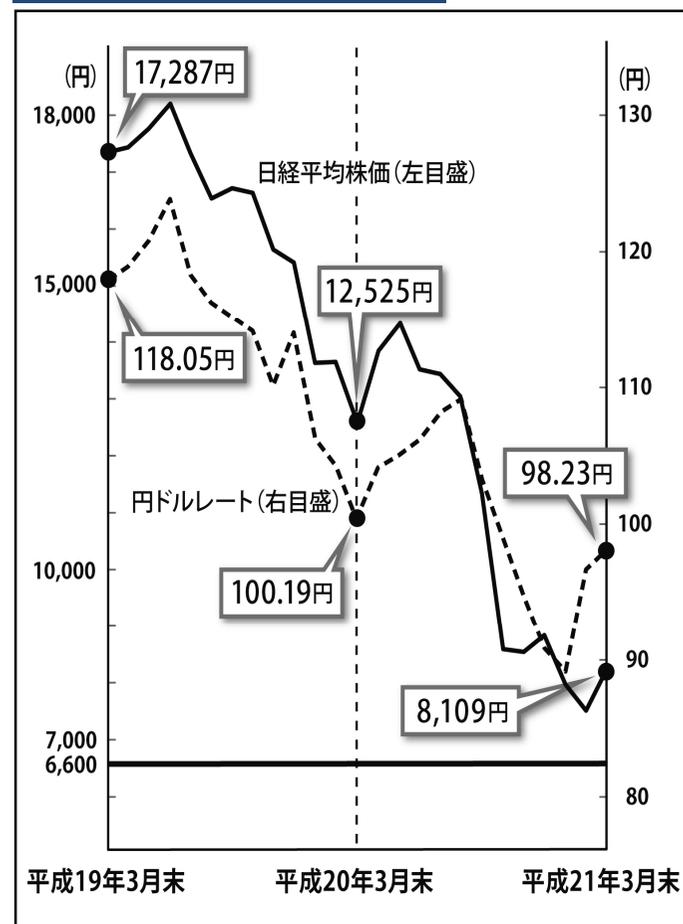
平成20年度の運用環境



《運用環境》

	平成18年度末	平成19年度末	平成20年度末
期末TOPIX	1,713.61	1,212.96	773.66
期末日経平均株価 (円)	17,287.65	12,525.54	8,109.53
期末10年国債利回り (%)	1.650	1.275	1.340
期末円相場 (円/ドル)	118.05	100.19	98.23
期末円相場 (円/ユーロ)	157.33	158.19	129.84

日経平均株価・円ドルレートの推移



健全性指標



○ソルベンシー・マージン比率、実質純資産額

(単位：億円、%)

	平成20年度末		平成19年度末
		前年度末差	
ソルベンシー・マージン比率	1,098.7	△215.4ポイント	1,314.1
実質純資産額	29,035	△16,348	45,384
一般勘定資産に対する比率	12.4	△6.1ポイント	18.5

ソルベンシー・マージン比率

1,098.7%
1,000%を超える水準の
支払余力を確保

○一般勘定資産全体の含み損益

(単位：億円)

	平成20年度末		平成19年度末
		前年度末差	
一般勘定資産全体の含み損益	9,812	△14,142	23,954
うち有価証券(注1、2)	5,244	△13,669	18,914
うち土地(注3)	4,550	△565	5,115

実質純資産額

2兆9,035億円
＜一般勘定資産に対する比率＞
12.4%
引き続き、10%以上の水準を確保

(注)1. 時価のある有価証券に加え、時価のない有価証券(外貨建の子会社株式及び関連会社株式等)を為替評価した場合の含み損益相当額を記載しています。

2. 有価証券には、CD(譲渡性預金)等、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるものを含めています。

3. 平成11年度末(明治生命)および平成12年度末(安田生命)に実施した土地の再評価による「再評価差額」を含めています。また、借地権を含めています。

○国内株式含み損益ゼロ水準

	平成20年度末	平成19年度末
仮に当社ポートフォリオが日経平均株価およびTOPIXにフル連動するとした場合		
日経平均株価ベース	6,600円程度	7,400円程度
TOPIX ベース	640円 [°] 外程度	720円 [°] 外程度
株価指数と当社ポートフォリオの過去の連動性を用いて算出した場合		
日経平均株価ベース	6,400円程度	7,200円程度
TOPIX ベース	620円 [°] 外程度	700円 [°] 外程度

含み損益(一般勘定資産全体)

9,812億円

国内株式含み損益ゼロ水準

(日経平均株価ベース)

・仮に当社ポートフォリオが日経平均株価にフル連動するとした場合

6,600円程度

・株価指数と当社ポートフォリオの過去の連動性を用いて算出した場合

6,400円程度

○リスク管理債権額

(単位：億円、%)

	平成20年度末		平成19年度末
		前年度末差	
リスク管理債権額	302	△121	423
貸付残高に対する比率	0.50	△0.18ポイント	0.68

健全性向上をめざした取組み①

○主要収支項目

(単位：億円)

	平成20年度		平成19年度
		前年度差	
経常収益	37,847	2,329	35,518
保険料等収入	26,865	328	26,537
資産運用収益	5,466	△ 285	5,752
うち有価証券売却益	573	218	← 355
その他経常収益	5,515	2,286	3,228
うち責任準備金戻入額	3,568	2,740	827
経常費用	36,733	3,114	33,619
保険金等支払金	24,552	△ 524	25,077
責任準備金等繰入額	11	△ 0	12
資産運用費用	6,007	3,810	2,196
うち有価証券売却損	1,132	775	← 356
うち有価証券評価損	2,855	2,539	315
その他経常費用	2,843	△ 250	3,094
経常利益	1,114	△ 784	1,898
特別利益	352	240	111
価格変動準備金戻入額	347	347	—
特別損失	116	△ 120	237
当期純剰余	1,222	△ 409	1,631
当期末処分剰余金	1,257	△ 452	1,710

30%以上下落した国内株式すべてを減損処理

今般の株価下落の影響にも的確に対応するため、時価がある国内株式について、時価が帳簿価額に比べて30%以上下落したものすべてを減損処理

・有価証券評価損 2,855億円

○有価証券評価損

(単位：億円)

	平成20年度		平成19年度
		前年度差	
有価証券評価損	2,855	2,539	315
うち公社債	—	—	—
うち国内株式	2,345	2,059	285
うち外国証券	450	420	29

※有価証券売却損益は、△558億円

これらの取組みにより、資産の健全性が向上

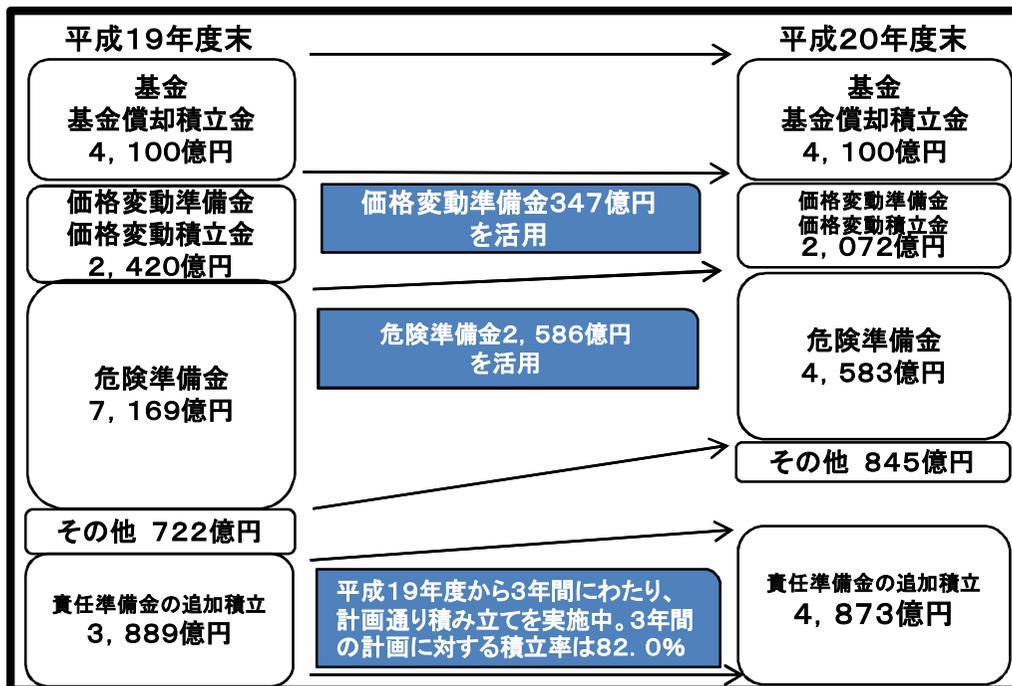
《国内株式含み損益ゼロ水準》

7,400円程度から

6,600円程度に低下

(日経平均株価ベース：仮に当社ポートフォリオが日経平均株価にフル連動するとした場合)

健全性向上をめざした取組み②



健全性の高い経営基盤の構築を推進

- ・従前から、価格変動準備金や危険準備金等を積み立て
- ・今回のような金融危機にも対応できるような堅固な財務基盤を構築

未曾有の経済環境に備えてきた準備金の活用

準備金を積立趣旨に則り

危険準備金	2,586億円
価格変動準備金	347億円
合計	2,934億円

を活用

引き続き、健全性の高い財務基盤を確保

内部留保等は1兆1,602億円
追加責任準備金を加えた合計
1兆6,475億円
さまざまなリスクに対応できる財務基盤を確保

○さまざまなリスクに対応するための内部留保等

(単位：億円)

	平成20年度末		前年度末差	平成19年度末
	金額	金額		
① 内部留保等	11,602	△ 2,810		14,412
うち基金・基金償却積立金	4,100	—		4,100
うち基金償却準備金	450	150		300
うち価格変動積立金	297	—		297
うち危険準備金	4,583	△ 2,586		7,169
うち価格変動準備金	1,775	△ 347		2,123
<ご参考>				
② 責任準備金の追加積立	4,873	984		3,889
合計 (①+②)	16,475	△ 1,826		18,302

(注)基金償却後、剰余金処分後の数値。

契約業績のポイント①

○保険料等収入の状況

(単位：億円)

	平成20年度		前年度比	平成19年度
	金額	増減率		
保険料等収入	26,865	1.2%		26,537
うち個人保険・個人年金保険	16,833	9.5%		15,376
うち団体保険・団体年金保険	9,528	△10.4%		10,638

《ご参考》

・銀行窓販の状況

(単位：億円)

	平成20年度		前年度比	平成19年度
	金額	増減率		
保険料等収入	2,221	718.0%		271

○新契約の状況（個人保険・個人年金保険）

(単位：億円)

	平成20年度		前年度比	平成19年度
	金額	増減率		
新契約年換算保険料	1,137	17.3%		970
うち第三分野	268	3.1%		259

○保有契約の状況

(単位：億円)

	平成20年度末		前年度末比	平成19年度末
	金額	増減率		
保有契約年換算保険料	16,950	△2.1%		17,315
うち第三分野	3,388	0.1%		3,386
保有契約高	2,241,403	△4.4%		2,344,349
個人保険・個人年金保険	1,172,113	△7.6%		1,268,320
団体保険	1,069,290	△0.6%		1,076,029

保険料等収入

2兆6,865億円
- 2年連続の増収 -

⇒ 個人保険・個人年金保険
についても増収に反転

《銀行窓販の状況》

2,221億円

⇒ 定額商品の好調な販売により
前年を大幅に上回る

新契約年換算保険料

1,137億円

⇒ 安定した資産運用を求め
るお客さまに対する定額一時
払商品の好調を主因として
増加

契約業績のポイント②

○解約・失効の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円）

	平成20年度		前年度比	平成19年度
解約・失効年換算保険料	917	△2.9%		945
解約・失効高	82,127	△9.4%		90,672
解約・失効率	6.48	△0.20ポイント		6.68

○総合継続率の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：％）

	平成20年度		前年度差	平成19年度
13月目総合継続率	89.6	2.4ポイント		87.2
25月目総合継続率	76.9	8.5ポイント		68.4

（注）総合継続率は、契約高ベースにて算出しています。

○団体年金保険の受託資産残高

（単位：億円）

	平成20年度末		前年度末比	平成19年度末
① 明治安田生命	63,806	△2.8%		65,633
一般勘定	59,777	△0.5%		60,082
特別勘定	4,029	△27.4%		5,550
② MDAMアクトマシムト	17,921	△5.2%		18,908
③ 安田投信投資顧問	3,237	△11.2%		3,645
合計（①+②+③）	84,965	△3.7%		88,186

クオリティの改善

《解約・失効率》

6.48%

クオリティ重視の運営により改善

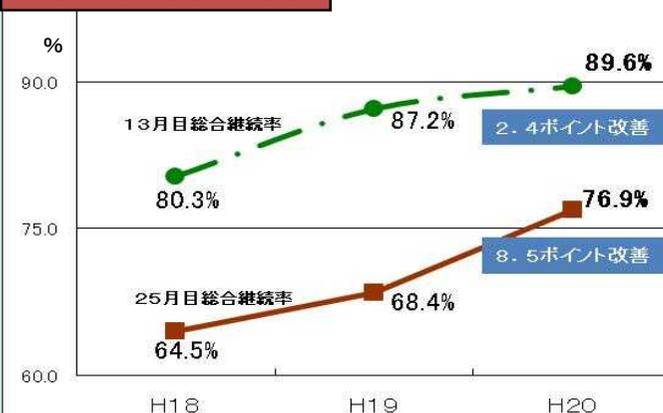
《解約・失効高》

前年度比 **9.4%の減少**

《総合継続率》

13月目… **2.4ポイント改善**
25月目… **8.5ポイント改善**

《ご参考》総合継続率の推移



収益性指標および社員配当の状況

○基礎利益

(単位：億円)

	平成20年度		前年度差	平成19年度
基礎利益	3,293	△ 865		4,158
費差	719	△ 325		1,044
危険差	3,262	△ 418		3,681
逆ざや	△ 688	△ 121		△ 567

<ご参考>

○平均予定利率

(単位：%)

	平成20年度		前年度差	平成19年度
平均予定利率	2.61	△0.21ポイント		2.82

基礎利益

厳しい経済環境のなか基礎利益は
3, 293億円

逆ざや

688億円

運用環境の影響を受け、
前年度差121億円の拡大

しかしながら、追加責任準備金の積立により、負債コストである平均予定利率は着実に低下

<<平成20年度決算(案)に基づく社員配当の状況>

【個人保険・個人年金保険】

○毎年配当タイプ

中長期的に安定した配当還元を実施する観点から配当率を据置き

○5年または3年ごと利差配当タイプ

上記同様に据置き

【団体年金保険】

内部留保を活用したことや、将来の予定利率を確保するための財源であるリスクバッファ率が平成16年1月合併以来最低水準となったことから、利差配当率を零に引き下げ

【団体保険・その他の保険】

保険収支の状況等を勘案し、配当率を据置き